

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171300116		
法人名	株式会社 マジェスティック		
事業所名	芦刈紀水苑		
所在地	小城市芦刈町大字永田3220-2		
自己評価作成日	平成28年2月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html">http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成28年3月29日	外部評価確定日	平成28年5月9日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>医療機関とは24時間連携が取れており、ターミナル2例にも対応してもらっており、入居者、ご家族、スタッフともに安心して苑生活が送れている。穏やかな雰囲気の中で、過ごしてもらっている。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は平成15年の開設で、今年で13年目を迎えている。その間、利用者の尊厳を最大限に尊重することを基底において、理念である「地域との交わりの中で、ゆっくり健やかに互いに尊重し」、「一日一日をおだやかに過ごしていただく」の実現を目指し、温かい家族的な雰囲気の中で、常により質の高い支援を迫及している。「芦刈紀水苑がここにあるのは、ごく普通の景色で」との言葉を地域の方からもらったり、利用者が散歩等で外出する時も自然に挨拶や声かけがある等、地域の一員として溶け込んでいる。</p> <p>毎月、家族に、日常の暮らしがわかる写真とコメントを入れて各個人ごとに出している苑便りは、家族にも好評である。また、利用者一人ひとりにアルバムが編集されおり、利用者や家族にとって良き思い出のアルバムができていく。</p> <p>入浴用リフトの設置、動物が好きな利用者の心を癒すセラピー犬的な愛犬の飼育、職員の斬新な発想を生かしての支援、年齢を重ねている利用者の状況をみての支援の柔軟な変更、その他随所に多くの工夫を見受けられる。</p> <p>施設長や管理者の適切な助言を含めて、全職員が同じ意識、同じ方向での支援が行われている事業所である。</p>
--

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域との交界りのなかでゆっくりすこやかにお互いを尊重しあう」を目標に実践している。	理念そのものは開設時からの一貫したものであるが、毎年、年度計画の中で確認している。理念は誰もが目につきやすい玄関やリビングに掲示してある。定例の会議や日頃の支援の中で課題等が生じた時は、理念に立ち返って話し合う等、常に職員は理念を意識しながらの支援である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設して13年目となる。地域の方々との交界りのなかで生活できている。	地域の自治会にも加入し、自然に地域の中に溶け込み、馴染んでいる。地域の中に事業所があるのに何の違和感もないという地域の方の声もある。散歩の時等に、近所の方と挨拶したり、言葉を交わすなど、普通の近所関係である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今期は地域の方へ向けた取り組みを行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の実行が少なかったのは反省点。地域の消防団との避難訓練を行えたのはとてもよかった。	止むを得ぬ事情で3回の開催であったが、会議内容は充実している。年度計画や行事計画、地域の行事を支援に活かす、認知症の理解、地域と一緒にあった避難訓練の実施など、その後の運営に活かされている。	事業所としても必要性を認識していることから、更に地域の理解を得るため、また、サービスの向上に具体的に活かしていくためにも、会議開催の回数を増やすことができるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議だけでなく、包括支援センターを中心とした「はびねっと」を通して、多職種との連携を深められている。	運営推進会議や包括支援センターが関係する会議を通しての連携は構築できているが、事業所自らが行政の窓口等に積極的に向いての相談等は行われていない。	事業所から行政への情報提供や共有だけでなく、行政自体も様々な機会を通じて問題解決等に取り組む姿勢が問われている。そのためにもこれまで以上に行政との連携の在り方についての再検討を期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては勉強会を通して、理解を深めている。拘束対象となる場合にはきちんと同意書を頂いている。	身体拘束だけでなく心理的な拘束の弊害や、拘束がない支援についての研修を重ねている。玄関には身体拘束が無いケアについての掲示もある。運営規程にも身体拘束がないケアが謳われている。玄関の出入りも自由に利用者は拘束感を感じていない。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今期は勉強会を通して学ぶ機会があった。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今期は勉強会ができています。わかりやすい内容だった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	わかりやすいように説明をするように心がけている。質問にも丁寧に答えるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんからは要望は出にくいですが、夏の家族会の時にはゆっくりと話せる時間を設けて会話の中で要望が出やすいように心がけている。	ご意見箱を置いたり、家族の面会時には必ず声をかけて気軽に話しやすい雰囲気づくりに努めている。家族も相談しやすさを感じており、介護に関する意向や要望の声が届いている。家族会でゆっくりと時間をとったり、利用者と家族が共同作品を制作する機会を捉えて意見等を聴く機会にする等の試みもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の中での気づきや要望に関しては主任クラスの職員から代表者へ提案するようにし、スタッフ会議でも意見が出せるようにしている。	介護経験の長い、短いに捉われることも無く、互いに支援や運営に関して自由に意見を出し合っている。感染症対策、空き箱を利用した足乗せ台や、多様な利用方法がある職員自作の衝立、外出場所や機会の検討など、色々と運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員のがんばりや貢献度を把握しており、環境整備・給与体系につなげられるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会や研修を受ける機会を設け、勤務調整や休み希望にもこたえるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に一度のFC内での交流研修への参加や勉強会を通しての交流でネットワークづくりができています。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	親身になってお話を聞き、お答えすることで信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	時間を作っていただいておりますように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や担当者からの情報をもとに早急に必要なサービスを見極め、対応できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	雑談を通して暮らしの知恵、昔話、方言など教えてもらい、共に暮らしている。大変なこともあるが、癒されることも多い。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居期間が長い入居者様のご家族様とはおつきあひも長くなっていくにしたがって、ご家族の話がされたり、いい関係づくりができています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅から離れるとなじみの場所の利用が少なくなってくるのは事実である。ご家族のほうから、連絡を取らないと言われることもある。	年齢を重ねての身体状況の変化で、以前は出かけていた自宅近くまでの外出や家族の協力を得ての一時帰宅が困難になっている利用者が多くなっているが、利用者が楽しみにしている花見を計画したり、かつての友人や教え子に継続的な訪問を働きかけている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	無理のない範囲で関わりを持たれながら過ごされるように気を付けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してから相談を受けることはなかった。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	きぼうや要望がなかなか出ないのが実情で、本人さんの立場に立って対応するように心がけている。	日々の関わりの中で、本人のちょっとしたしぐさや行動、つぶやき等からも一人ひとりの意向や暮らしの希望を把握するように努めている。入浴時の会話や夜間に寝付けない方の添い寝をしながら思いを聴くこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴を記入していただき、お話を聞くことで経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後数日は特に観察や関わりを密にし、状態の把握に努めている。内科の往診を希望される場合には早めに往診をしてもらい、異常の早期発見につなげられるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議で全スタッフから意見を聞いたり、家族からの要望も取り入れるようにしている。	本人や家族の意向を反映した利用者主体の具体的で実現可能な計画である。計画作成にあたっては全職員と家族が関わっている。設定した期間での評価と見直しは勿論、随時、状況の変化に伴った計画の見直しも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子がよくわかるような記録を心がけている。書式を利用して、1ヶ月の流れがわかるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの多機能化という点については、対応がむずかしい部分があると思うが、できる限りの対応はしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の一員として受け入れていただいているのでその中で安心して暮らしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に今までのかかりつけ医への通院か苑への往診かを選択して頂いている。ご家族もお勤めの方が多く、ほとんどが内科の往診を受けられている。	本人や家族が希望するかかりつけ医での受診支援である。現在、利用者全員が24時間往診ができる協力医療機関を利用している。協力医療機関とは24時間何時でも相談や往診が行われており、家族も安心している。診察科によっては職員が支援している。歯科も訪問診察であり、義歯も診てもらっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間いつでも連絡が取れるので、指示や往診など必要な対応をしてもらっている。気になることを報告できるので心強い。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行くなどして病院関係者との関係作りを努めている。施設の役割や対応可能範囲について理解してもらっており、退院、入院継続などの判断をしてもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に施設でするターミナルケアについて説明している。必要時にはご家族・主治医・施設側との話し合いの場を設け、共通の理解の下進めている。	重度化した場合及び「看取り介護」に関する指針があり、利用にあたって家族と納得のいく話し合いが持たれている。看取りの事例もこれまで数例あり、現在も看取り介護の方もおられる。いずれも家族、主治医、看護師、事業所と、状況に応じて綿密な連携が取られている。職員が不安を抱えた場合には上司が適切に助言している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当についての勉強会はおこなっていない。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地区の消防団員参加で避難訓練が実施できている。避難経路についても把握している。自動通報装置の一番目には今期も消部長の携帯電話を登録させてもらっている。	消防計画に基づいての避難訓練が実施されている。訓練にあたっては地元消防団も参加している。反省点も話し合い、次回の訓練に活かされている。近所にも訓練実施の案内を出して、協力を依頼している。消火器具やコンセント等の日常点検もきちんと行われている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にプライバシーに配慮した言葉かけや対応を心がけている。	利用者の尊厳の尊重を支援の基本にしている。言葉かけ一つでも、つい慣れに陥らないように介助の時の言葉づかいと一般的な話題を会話する時の言葉をきちんと使い分けるように、施設長や管理者が指導している。写真等の掲載も家族の了承をもらっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を出せない方が多いが答えが出しやすいような問いかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の一応の流れはあるが、その時々の方のペースに応じた対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面所に鏡とブラシを用意して、ご自分で整髪できるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会にはお祝いの意味を込めて赤飯を用意したり、楽しみとなるように心がけている。できる方には片づけなどしてもらい、生活の張りにもしてもらっている。	職員も支援が必要な方の傍らで同じ食事を摂っている。利用者は自分なりの早さでゆっくりと食事ができるよう配慮がなされている。テレビドラマを見ながらの食事を希望する方には小さなテーブルを別に用意して食べてもらう、居室での食事の方には適切な食事介助をするなど、一人ひとりに応じた支援である。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりの食事量、水分量のチェックをしている。カロリーで把握している入居者様もおられる。飲み物の種類を変えたりして、水分不足に気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとりひとりに合わせた口腔ケアをしている。口腔スポンジやジェルをしようして清潔に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレチェック表を利用して、ひとりひとりの排泄パターンを把握している。	一人ひとりの排泄習慣やパターンが把握できており、適切な支援が図られている。ほとんどの方はおむつ無しの排泄である。布パンツの方もいる。夜間はセンサーや気配で尿意を察してのトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように水分摂取に気を付けている。種類をかえて水分をとってもらったり、内服薬を調整して便秘予防をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週に3回の入浴や清拭をしている。お風呂用リフトの設置で、全介助の方でも浴槽につかることができるので双方の負担軽減になっている。ターミナルケアの方の清拭・入浴は訪問看護にて対応されているので補助なども行っている。	基本的には週3回、午前中の中の入浴であるが、希望する方には何時でもゆっくりと入浴してもらっている。その方の状況に応じて、リフト浴での支援も行われている。冬場は特にヒートショック防止に細心の注意を払っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で過ごすことを好まれたり、個々の生活習慣に応じて過ごされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容がすぐにわかるようにファイルをしている。薬管理の担当を決め、薬の変更や不足が発生しないように注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手伝いや軽作業をしていただき、生活の張りんにしてもらっている。運動に精を出す入居者さんもおられる。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節のよいときには散歩を良くする。年行事で外出を計画しているが、入居者様の状態で年々外出は厳しくなっている。	天候や季節をみての近所の散歩が多い。車椅子の方も一緒に出かけている。日向ぼっこも喜ばれている。外食に出かけたり、遠出もあったが、利用者の状況の変化もあり、最近では出かける機会が少なくなっている。年間計画で利用者の状況に応じた外出先を検討中である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により、お守り程度に少額のお金を所持されている方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りも一方通行で受け取られるのみのほうが多い。電話の希望も少ない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様がわかりやすいような表示を心がけている。温度・湿度・換気に注意している。季節の飾りつけは高齢者に合うものになるように注意している。	すぐ近くに交通量の多い道路や橋があるが、騒音も無く、静かな環境である。居室の室温と湿度は各居室毎に適切な管理が行われている。リビングのテーブルやソファの配置を工夫している。利用が好まれる本や雑誌も置いてある。また、新聞も配達してもらっている。トイレも広くて明るく、使いやすい造りになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	見え方・聞こえ方・相性・状態により自然とリビングや食卓での位置が決まってくる。状態に応じて随時対応している。居室で過ごされる場合には安全に過ごされるか見守りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ち込まれる方もおられるが、持ち込むことが不穏につながることも経験している。使い慣れたものを持ち込めることは伝えている。	各居室がそれぞれにゆっくりと落ち着いた時間が過ごせる場所になっている。馴染みがあったり、使い慣れた品物の持ち込みに特に制限は無いが、利用者の心情を考えて、事前に家族と相談する等の配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路を確保して移動しやすくしたり、センサーを使って安全確保に努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない